

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間：2006年10月中旬から11月下旬までの旬別  
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業：さんま棒受網漁業  
 対象魚群：南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量：10月中旬は中位水準で減少を始め、10月下旬には低位水準となる。11月中旬には断続的となり、ほぼ終漁となる。
- (2) 漁場：10月中旬～下旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖が漁場となる。落石～釧路沖の漁場は、11月上旬以降消滅し、11月上旬～中旬は、襟裳岬沖に漁場が残る。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量：10月中旬は、中位水準に増加し、10月下旬は中位水準で推移する。11月上旬からゆるやかに減少し、11月下旬は低位水準になる。
- (2) 漁場：10月中旬～下旬は八戸～気仙沼沖が主漁場となる。11月上旬は、三陸南部まで漁場が広がる。三陸北部の漁場は、11月上旬には散発的となり、11月中旬～下旬は南部が主漁場となる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量：10月中旬は来遊量が少なく、漁場ができて断続的である。10月下旬は、低水準ながらも本格的な来遊がある。来遊量は徐々に増加し、11月中旬には中位水準となるが、下旬には減少して低位水準になる。
- (2) 漁場：10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される可能性がある。10月下旬～11月上旬は、常磐北部が主漁場となる。11月中旬～下旬は、常磐北部～鹿島灘が主漁場となる。

### 2. 予測の概要

海 域		10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位減少	中位減少	低位減少
	漁 場	八戸～気仙沼沖	八戸～気仙沼沖	北部～南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位水準	低位増加	中位水準	低位減少
	漁 場	北部	北部	北部	北部～鹿島灘	北部～鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(9月下旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、9月中旬を上回ったものの、前年並みの低水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は、期前半から期半ばにかけて減少したが、期後半にやや増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石南東～南沖と落石南南東～釧路南南東沖であった。また襟裳岬周辺と襟裳岬南沖でも散発的に漁場ができた。

落石南東～南沖の 15～30 海里付近の表面水温 14～17℃では、ほぼ連日小型船が多数と大型船が数隻操業した。大型船で90トン程度漁獲する日もあったが、多くの大型船は10～40トン程度の漁獲であった。小型船は、満船となる日が多かった。

落石南南東～釧路南南東沖の 60～90 海里付近の表面水温 14～18℃では、22 日夜以降、ほぼ連日、大型船が数十隻操業した。期前半と期後半は 60トン以上漁獲する船が多かったが、期半ばは 40トン以下しか漁獲出来なかった。

襟裳岬東 10 海里付近と南東 30 海里付近の表面水温 15～17℃では、28 日夜に大型船が数隻操業した。漁獲量は数トンから 15トン程度と少なかった。

襟裳岬南南東 70 海里付近の表面水温 17～18℃では、28～29 日夜に大型船が数隻操業した。漁獲量は数トンから 15トン程度と少なかった。

##### (3) 魚体

29～31cm モードの大型魚と 24～27cm モードの中型魚が主体。中型魚以下の魚の混じり具合は、場所や日によって大きく異なり、少ない時には 2 割程度、多い時は 8 割程度と急激に増加した。体重 140g 台が主体。

#### 2) 三陸海域

操業した船は無かった。